

やうにおぼゆ、内に入ぬればいろ／＼の錦のあげはりに、みすいとあをくてかけわたし、へい。ま  
んなどひきたるほど、なべてたゞに此世とおぼえず、

〔枕草子春曙抄十〕屏幔也、幕のたぐひ也、

〔榮花物語御賀二十〕ところ／＼のあげはり、へい。ま。ん。などの色けざやかに、つなの色おどろ／＼しき  
まであかうみえたるほどなど、けだかうめでたし、

〔延喜式三十〕元正略○中前一日、殿極殿大東南庭設皇太子及大臣輕幄、諸門懸屏幔、南三大門不  
又豐樂

殿略○中東西廊門南左右并諸門懸屏幔略○中

六月十二月神今食、中院東西廂殿懸幔、中門及掖門懸屏幔略○中

十一日○九奉伊勢太神宮幣、八省昭慶門東腋廊内懸幔、又同門及東西腋門懸屏幔、

〔西宮記正月上〕二日二宮大饗

有上皇及母后者、二日朝覲略○中 所司裝束、入門内鋪綠道、立屏幔、臨其門下、自御輿步行、有筵  
御休所、

〔西宮記正月上〕一七日節會

天慶三年正月七日、上不出御、依兵亂止音樂、故不構舞臺、又依懸左近警固幕、施屏幔廊北柱云々、

〔江家次第十五〕卯日○大  
嘗會

寛平式云、是夜不警蹕、入御後殊禁高聲、仁和記云、入自南戶、先御西方御床、日記云、鈴櫃置御床南  
頭者、然而近例立左近陣前屏幔内云云、

〔類聚雜要抄五節雜事〕移徙作法

一行事所雜物等略○中 屏幔

〔大饗御裝束間事〕康平八五廿八記云、參殿申饗間事、屏幔、中門内幔、東西廊前屏幔如常儀、中門外幔  
如何、隨身所前立之、侍所前立、幕前不立之、